弥生時代

名前

問1　弥生時代の遺跡からは、稲作に関連する様々な道具や施設が発見されています。収穫した稲の穂首を摘み取るために用いられた石器と、穀物を湿気やネズミなどの害獣から守るために床を高くした貯蔵用の施設の組み合わせとして、正しいものはどれですか。（2017年 岡山県公立入試 類似）

1. 和同開珎と高床倉庫
2. 石包丁と高床倉庫
3. 石包丁と竪穴住居
4. 銅剣・銅矛と高床倉庫

問2　古代の倭（日本）の王や諸国の首長が、中国の皇帝へ貢物を送った「朝貢外交」の主な目的を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2021年 茨城県公立入試 類似）

1. 中国大陸での戦乱を鎮めるために、日本の強力な軍事力を提供して外交上の恩を売るため
2. 中国の王朝を軍事的に支配下に置き、その領土を大陸側へ広げるための足がかりにするため
3. 中国にある高度な仏教建築の技術を独占的に導入し、日本国内に巨大な寺院を建立するため
4. 中国の皇帝から自らの地位や権威を認めてもらい、国内や周辺諸国に対する統治の正当性を得るため

問3　兵庫県神戸市の桜ヶ丘町などで出土した、釣り鐘のような独特の形をした弥生時代の青銅器について述べた文として、最も適切なものはどれですか。なお、この青銅器の表面には、当時の生活の様子や幾何学的な文様が描かれていることがあります。（2021年 大阪府公立入試 類似）

1. 魏の皇帝から邪馬台国の女王に贈られたとされる銅鏡である
2. 縄文時代の集落で見つかる、魔除けのために作られた土偶である
3. 狩猟や農耕の様子が描かれた、祭祀に用いられた銅鐸である
4. 古墳の副葬品として納められた、馬に装着する鉄製の装具である

問4　出土した人骨の統計において、縄文時代に比べて弥生時代は武器などによる傷を受けた割合が高いことが分かっています。こうした背景から、当時の人々が敵の侵入を防ぐために、居住域の周囲に深い堀や溝を巡らせた集落を建設しました。この防御的な構造を持つ集落を何と呼びますか。（2024年 北海道公立入試 類似）

1. 前方後円墳
2. 竪穴住居
3. 環濠集落
4. 高床倉庫

問5　邪馬台国の女王が中国の魏の皇帝に使者を送った際、皇帝から授けられたとされる称号と、その証として贈られた品物の組み合わせとして適切なものを選びなさい。（2025年 長野県公立入試 類似）

1. 「親魏倭王」の称号と、金印や銅鏡
2. 「日本国王」の称号と、明との貿易に用いられた勘合符
3. 「漢委奴国王」の称号と、志賀島で発見された金印
4. 「倭王」の称号と、百済から贈られた七支刀

問6　古代における農具の改良について、木製農具の先に鉄の刃先を取り付けるようになった目的と、その結果として生じた変化について述べたものとして、最も適切なものはどれですか。（2016年 富山県公立入試 類似）

1. すべての農具を鉄のみで製造することで、木材資源の消費を抑え森林を保護した
2. 土を深く耕すことを可能にして農業生産力を高めるため、収穫量が増大した
3. 石包丁の使用を継続しつつ、木製農具の強度を補うことで穂首刈りの効率を上げた
4. 灌漑用水を確保するために、大規模な土木工事専用の石造りの道具を開発した

問7　佐賀県の吉野ヶ里遺跡などの墳丘墓から出土する「細形銅剣」をはじめとした青銅器の性格について述べた文として、歴史的な事実と合致するものはどれですか。（2021年 佐賀県公立入試 類似）

1. 弥生時代を通じて、一貫して実戦での殺傷能力を追求した武器であった
2. 鉄器に比べて硬度が高かったため、土木工事の道具として普及した
3. 調理や食事を円滑に進めるために開発された、一般庶民の日常の生活用具であった
4. 富や権力を象徴し、村々のまとまりを強めるための儀式や祭りに用いられた

問8　7世紀初め、推古天皇の摂政であった聖徳太子は、小野妹子を遣隋使として中国の隋へ派遣しました。その際、中国の皇帝に宛てた手紙の中で「日出づるところの天子、書を日没するところの天子に致す…」という有名な一節を記しました。この外交姿勢の背景にある、従来の中国との関係からの変化について、正しい説明を選びなさい。（2024年 宮崎県公立入試 類似）

1. 中国の皇帝に対して臣下として従う従来の形式をとりつつも、対等な立場での外交を目指そうとした。
2. 日本の天皇を中国の皇帝よりも上位に位置づけ、中国を日本の属国にしようとした。
3. 中国の皇帝からの称号を拒否し、完全に国交を断絶して鎖国体制を築こうとした。
4. 中国の皇帝に対して朝貢を一切行わず、民間商人による自由貿易のみを求めるようになった。

問9　表面に当時の生活の様子や動植物、流水文などの模様が描かれ、上部に「鈕（ちゅう）」と呼ばれる持ち手のような部分がついている、弥生時代の祭祀用青銅器の名称は何か。（2026年 新潟県公立入試 類似）

1. 埴輪
2. 銅矛
3. 銅鐸
4. 銅戈

問10　弥生時代に中国や朝鮮半島から伝わった鉄の利用について、当時の社会に与えた影響を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2018年 奈良県公立入試 類似）

1. 須恵器と呼ばれる硬い土器を焼くために、窯の温度を上げる燃料として利用された。
2. ナウマンゾウなどの大型の獣を捕らえるための、強力な打製石器の材料となった。
3. 木製農具の刃先に装着することで土地を耕す効率が向上し、農業生産力が高まった。
4. 土偶の表面を細かく削り出すための彫刻用具として、全国で広く普及した。

問11　3世紀の中国の歴史書において、邪馬台国の女王卑弥呼が30ほどの小国を従え、倭の王として交流したことが記されている当時の中国の王朝名を答えなさい。（2023年 山形県公立入試 類似）

1. 秦
2. 魏
3. 隋
4. 漢

問12　弥生時代に本格的に始まった稲作において、収穫の際に用いられた石包丁の使用方法について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2017年 千葉県公立入試 類似）

1. 稲の穂の部分を摘み取るために用いられた
2. 土を掘り返して苗を植えるために用いられた
3. 稲を根元から刈り取るために用いられた
4. 収穫した後の脱穀を行うために用いられた

問13　稲作の技術が広まったことで、土地や水をめぐる争いが起き、周辺のムラを従えて「クニ」をつくる者が現れた弥生時代の社会において、青銅器はどのような役割を担ったと考えられますか。（2019年 徳島県公立入試 類似）

1. 王や指導者がその権威を示すため、あるいは祭祀を行うための象徴として用いられた
2. 大陸との交易において、日本の特産品として輸出される主要な品目となった
3. 呪術的な力を持つと信じられ、女性の姿をかたどった土偶とともに魔除けとして埋められた
4. 大規模な水田開発を行う際、土を掘り起こすための主要な農具として普及した

答え合わせ・解説

問1	答え 2 石包丁と高床倉庫	弥生時代に始まった稲作では、磨製石器の一種である石包丁を用いて、稲の穂の部分だけを摘み取る「穂首刈り」が行われていました。また、収穫した穀物を安全に保管するため、風通しを良くして湿気を防ぎ、柱に「ネズミ返し」という板を取り付けてネズミの侵入を防ぐ工夫がなされた高床倉庫が作られました。
問2	答え 4 中国の皇帝から自らの地位や権威を認めてもらい、国内や周辺諸国に対する統治の正当性を得るため	古代の東アジアでは、中国の皇帝を中心とした国際秩序が形成されていました。倭の王たちは、圧倒的な力を持つ中国の皇帝に貢物を送り（朝貢）、臣下としての称号を受けることで、自分が正当な支配者であることを国内外に示す材料としました。
問3	答え 3 狩猟や農耕の様子が描かれた、祭祀に用いられた銅鐸である	釣り鐘状の青銅器は銅鐸と呼ばれ、弥生時代の文化を象徴する遺物です。銅鐸の表面には、当時の人々が狩りをする姿や、高床倉庫、稲作の様子などが浮き彫りで描かれているものがあり、文字のない時代の生活を知るための重要な手がかりとなっています。縄文時代の土偶や、古墳時代の鉄製武具とは時代や特徴が異なります。
問4	答え 3 環濠集落	集落の周りに堀（溝）を巡らせた環濠集落は、佐賀県の吉野ヶ里遺跡などに代表される弥生時代の特徴的な集落形態です。受傷人骨の増加という考古学的な事実とあわせて、当時の社会が常に争いの危険にさらされていたこと、そして集落が共同体として自衛機能を持っていたことを示しています。
問5	答え 1 「親魏倭王」の称号と、金印や銅鏡	卑弥呼は魏の皇帝から「魏に親しい倭の王」を意味する「親魏倭王」の称号を授かりました。その際、権威を象徴する品として金印や100枚の銅鏡などが贈られ、これらを利用して国内の統治を有利に進めようとしたと考えられています。なお、「漢委奴国王」の金印は1世紀（後漢の時代）の出来事です。
問6	答え 2 土を深く耕すことを可能にして農業生産力を高めるため、収穫量が増大した	鉄の刃先を装着することで、従来の木製のみの農具では難しかった硬い土壌を深く掘り起こす（深耕）ことが可能になりました。これにより土壌の養分が有効に活用され、農業生産力が大幅に向上しました。石包丁から鉄鎌への変化なども含め、鉄の普及は収穫量の増大と社会の余剰生産物の蓄積に直結しました。
問7	答え 4 富や権力を象徴し、村々のまとまりを強めるための儀式や祭りに用いられた	弥生時代の青銅器は、大陸では武器として使われていた形状を起源としていますが、日本国内では「祭りの道具」としての性格を強めていきました。例えば、銅剣はより薄く装飾的なものへ、銅鐸はより大型で音を響かせるものから観賞用のものへと変化しており、これらは農耕儀礼などの宗教的な場や、首長の権威を示す場において重要な役割を果たしていました。
問8	答え 1 中国の皇帝に対して臣下として従う従来の形式をとりつつも、対等な立場での外交を目指そうとした。	それまでの朝貢外交は、中国の皇帝を上位、周辺諸国の君主を下位とする主従関係が前提でした。しかし、聖徳太子が送った手紙は、日本の君主も中国と同じ「天子」という称号を用いることで、形式上の臣下という立場から脱却し、より対等に近い国際関係を築こうとする意図が含まれていました。これに対し、隋の煬帝は不快感を示しましたが、当時の朝鮮半島の情勢などもあり、日本との関係を維持しました。
問9	答え 3 銅鐸	銅鐸は、その形状から「鐘」のような役割を持っていたと推測されています。初期のものは音を鳴らすために小規模でしたが、時代が下るにつれて大型化し、村の祭りで見せるための宝物としての性格を強めていきました。
問10	答え 3 木製農具の刃先に装着することで土地を耕す効率が向上し、農業生産力が高まった。	弥生時代には、大陸から鉄器と青銅器がほぼ同時に伝来しました。鉄は硬くて鋭利な性質を持つため、木製農具の先に取り付けて土を掘り返しやすくしたり、木工具や武器として利用されたりしました。これにより、石器を使っていた時代に比べて稲作などの作業効率が劇的に改善されました。なお、青銅器は主に祭祀（お祭り）や儀式のための道具として使い分けられました。
問11	答え 2 魏	3世紀前半の日本（倭）の様子を伝える『魏志倭人伝』は、中国の三国時代における王朝の一つである「魏」の歴史書です。この書物には、邪馬台国の卑弥呼が魏に使いを送り、皇帝から「親魏倭王」の称号や金印、銅鏡などを授かったことが詳しく記されています。選択肢にある漢は紀元前後の、隋は6世紀末からの王朝であり、時代が異なります。
問12	答え 1 稲の穂の部分を摘み取るために用いられた	弥生時代前期の収穫方法である「穂首刈り」に関する問いです。当時は稲が実る時期が一定ではなかったため、実った稲の穂だけを一つずつ石包丁で摘み取っていました。根元から刈り取る方式は、後に鉄製の鎌が普及するまで一般的ではありませんでした。
問13	答え 1 王や指導者がその権威を示すため、あるいは祭祀を行うための象徴として用いられた	稲作の伝来により生産力が高まると、土地や水をめぐる対立から社会に階級が生じ、各地に「クニ」が成立しました。地域の指導者は、集団の結束を固めるための祭祀（まつり）を主導し、その際に大陸由来の希少な技術で作られた青銅器を権威の象徴として利用しました。土偶は縄文時代の特徴的な遺物であり、青銅器は農具としては脆いため実用的ではありませんでした。